

キャンパス散策（麗澤大学）



校章 マンリョウ

■森と共生するキャンパスづくり

麗澤大学は、今年開学50周年を迎えました。この記念事業の目玉として計画しているのが新校舎の建設です。この新校舎は、雑木林を開墾して建てることになりましたが、出来るだけ木を残すという考え方から、木に囲まれた建物になります。

このことによって、木が直射日光を遮るスクリーンの役割を果たすこととなり、自然エネルギーを最大限に利用した省エネ型の建物になる予定です。しかも、中から眺める外の景色は、各階ごとに見える木の様相が異なり、四季折々に色も楽しめるという効果も期待されています。

本学は、創立者廣池^{ひろいけ}ちくろう九郎（法学博士、1866～1938）が昭和10（1935）年に創設した道徳科学専攻塾を出発点としています。創立者は、社会人を対象とした道徳教育に取り組んでいましたが、その活動を通して学校教育における道徳教育の必要性を痛感し、この私塾を開設するに至りました。この学校を開設するための用地選定に当たっての方針は、東京から「近すぎず、遠すぎず」であったと言います。これは、人格教育を施すためには、都会の雑音から隔てる必要があるが、日本の中心である東京から遠すぎるのも時流への対応がおろそかになってしまうということです。こうしたことから、現在の柏市に土地を求めることになりましたが、男女共学・全寮制を



麗澤大学



2011年完成予定の新校舎 完成予想図



道徳科学専攻塾の正門（昭和10年）



芝生のベンチでくつろぐ学生達

基本とし、その目標は総合大学づくりにあったことから、約33万㎡もの広大な敷地を確保して学校教育がスタートしました。その後、少しずつ拡張して現在では約45万㎡になっていますが、その大部分は創立当時に確保されたものです。

また、創立者は自然を守ることに心をかけています。その象徴は、邪魔になる木を切るのではなく、建物の形を変えても出来るだけ切らない工夫や、時には建物の中に木を取り込んでしまったこともあります。この考え方を継承するため、平成15年に完成した廣池千九郎記念講堂は、樹木に配慮した建物の配置を計画し、その上で屋根の一角が木が貫いている様子を実際に作り出しました。

今回の新校舎建設に当たっては、木を切った場所を確保することになりますが、1本切ったら2本新たに植えることを基本とし、残された木もしっかりと手入れをし、森と共生するキャンパスづくりを目指しています。

本学の学生は、純朴で大人しいと評されることが多く、これはこうした自然環境が大きな影響を与えていると思います。四季折々に見せる木々の彩りは、季節を感じる力を養い、それが節目、節目を大事にするという日本人独特の感性を培ってきたと考えられます。晴れた日には、多くの学生が外のベンチでくつろいでいる様子が散見され、広々とした空間で自然を楽しんでいます。人工物に囲まれた生活は、ともすれば感覚を研ぎ澄まし過ぎるさらいがありますが、自然を見る目には、自ずとやさしさが溢れてきます。隣接するバス通りを通る車の音もほとんど気になることはなく、物事を落ち着いて考えるのに絶好の静かな環境と言えるでしょう。



廣池千九郎記念講堂の桜

また、昨年実施した学生へのアンケート調査では、キャンパスの環境について80%超の学生が「満足」であると回答しており、キャンパスの中で一番居心地のいい場所を尋ねた設問では、「芝生」や「ベンチ」といった単語が目立ちました。さらに、キャンパスライフで良いところは何かと尋ねた設問においても、緑や自然が多い、といった回答が上位を占めました。こうしたことから、本学の環境は学生の満足度も高く、彼らの人格形成に大変よい働きをしていると考えられます。

創立当時の、最寄り駅からの動線に沿って植えられた桜（ソメイヨシノ）が、現在では立派な桜並木になっていますが、これも創立者が、学生が勉学の合間に気分転換を図れるようにと配慮して植えたものです。桜ばかりではありません。井田孝名誉教授によると、本学のキャンパスには、約300種、1万5千本もの樹木があるそうです。珍しいところでは、「ヒトツバタゴ（通称：ナンジャモンジャ）」や「ハンカチノキ」、

あるいは「楷の木（カキノキ）別名：孔子木」がその代表格でしょうか。近隣住民の方々もキャンパスの四季折々の彩りを楽しみにされていて、地域貢献の一翼も担っています。



昭和30年頃の桜並木



現在の桜並木



ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）



ハンカチノキ

こうした教育環境を今後も永続的に保全するため、本学では開学50周年に合わせて「キャンパスの環境保全・整備の基本理念と基本方針」を定めました。この理念・方針に則り、恵まれた環境を受け継ぎ、これらを生かした教育や学生支援を行うことが我々教職員の使命だと考えています。

麗澤大学 キャンパスの環境保全・整備の基本理念と基本方針

<基本理念>

キャンパスの環境保全ならびに整備は、学生・生徒・園児・教職員及び法人関係者をはじめ、キャンパスを訪れるすべての人々が、「仁草木に及ぶ」という創立者廣池千九郎の仁愛の精神に触れ、道徳心を養うことのできる環境づくりをその基本理念とする。

<基本方針>

1. 人々にやすらぎと教育的・道徳的な感化を与える環境づくり
2. 人と自然の共生をはかる自然を大切にした環境づくり
3. 人と自然が調和する安心・安全な環境づくり
4. 地域社会に貢献しうる環境づくり
5. 資源の再生利用に配慮する環境づくり